

March 2, 2020

【前日の為替概況】パウエル FRB 議長利下げ示唆、ドル円安値 107.51 円から 108.05 円で引け

28日のニューヨーク外国為替市場でドル円は大幅に続落。終値は108.05円と前営業日NY終値(109.59円)と比べて1円54銭程度のドル安水準。新型コロナウイルスの世界的流行への懸念から世界の株価下落に歯止めがかからない状況となり、リスク回避目的の円買い・ドル売りが優勢となった。パウエルFRB議長が「新型コロナウイルスを注視。経済を支援するために手段行使し適切に行動する」との見解を示すと、米10年債利回りが一時1.1143%と過去最低水準を更新し、ドル円は107.51円まで下落した。

新型コロナウイルスを巡っては、新たに6カ国で初の感染者が確認され、米国内でもカリフォルニア州を中心に感染拡大の警戒感が強まっている。世界保健機構(WHO)は、世界的な危険性の評価をこれまでの「高い」から「非常に高い」に引き上げた。ダウ平均は一時1085ドル急落し、日経平均先物は大証終値比620円安の2万0460円まで売られた。もっとも、ダウ平均は取引終了間際に急速に下げ幅を縮めたほか、ナスダック総合はプラス圏に浮上。ドル円にもショートカバーが入り108円台前半まで下げ渋った。

ユーロドルは続伸。終値は1.1026ドルと前営業日NY終値(1.1001ドル)と比べて0.0025ドル程度のユーロ高水準。日本時間夕刻に1.1053ドルまで上昇したものの、NY市場に入ると失速。ユーロ円の急落につれた売りが出て一時1.0951ドルと日通し安値を付けた。2月米シカゴ購買部協会景気指数(PMI)が49.0と予想の45.9を上回ったこともユーロ売り・ドル買いを誘った。パウエルFRB議長が追加利下げの可能性を示唆し米長期金利の低下とともにドル売りが優勢となり、1.1046ドル付近まで反発。

ユーロ円は3営業日ぶりに反落。終値は119.13円と前営業日NY終値(120.56円)と比べて1円43銭程度のユーロ安水準。新型肺炎の感染拡大を受けてリスクオフの動きが継続し、118.39円まで下落した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、「リスク回避の円買い」が「日本売り=円離れ」を上回り続落か

本日の東京市場のドル円は、新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)懸念に対する「リスク回避の円買い」が「日本売り=円離れ」を上回り下値を探る展開を予想する。

本日は、日銀が米連邦準備理事会(FRB)と協調して、資金供給策を打ち出すとの思惑もあり要警戒か。

2003年のSARSコロナウイルスによるドル円と日経平均株価の下落率と同様の下落率を想定した場合、以下の通りとなる。本日は、日銀が株安・円高対応策が打ち出すとの思惑もあり要警戒となる。

ドル円は、高値112.23円から8%下落(▲8.98円)で103.25円。

日経平均株価は、高値24115.95円から18%下落(▲4340円)で19775円。

中国国家统计局が29日に発表した2月の製造業PMIは35.7と、1月の50から大幅に低下、非製造業PMIも29.6となり、1月の54.1から大幅に低下し、新型コロナウイルスの影響で過去最低水準を記録した。本日財新が発表する2月の製造業PMIも同様の悪化が予想されるが、中国の景況感をより如実に現すことでネガティブサプライズに要警戒となる。中国の2020年1-3月期実質国内総生産(GDP)は、4%程度に落ち込むと予想されており、日本経済も2四半期連続のマイナス成長、リセッション(景気後退)の可能性が警戒されている。

ニューヨーク株式市場は高値から10%以上下落したことで調整局面入りとなっており、今後の注目ポイントは、弱気相場入りの目安となる20%下落(ダウ平均:23654.86ドル)となる。先週末のダウ平均は、一時1085ドルの下げ幅だったが、パウエルFRB議長が「金融当局は今後の展開と経済見通しへの影響を注視している。われわれは経済を支えるための手段を活用し、適切に行動する」と表明し、3月17-18日の米連邦公開市場委員会(FOMC)での第4次予防的利下げ(▲0.25%:1.25-1.50%)を示唆したことで、▲357.28ドルまで下げ幅を縮小して25409.36ドルで引けている。フェデラルファンド(FF)金利先物の動向によると、年内86bpの利下げ、すなわち3回(=0.25% x 3)の利下げ、第5次から第6次までの予防的利下げを織り込んでいる。

米系ヘッジファンド勢などは、四半期末の解約に向けた資金確保に向けて日本株を売り、ドル買い・円売りをしているが、本邦勢も3月期末決算に向けて米国・米国債売りによるレパトリ(ドル売り・円買い)をすることで、ドル円の下げスピードは緩慢となっている。日経平均株価の下値目処は、株価純資産倍率(PBR)1倍前後の20600円処、昨年8月6日の安値20110円処となっており、攻防の分岐点としては、日本銀行が購入している上場投資信託(ETF)の持ち値と推定されている19100円処となる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○08:50 ◇ 10-12 月期の法人企業統計調査（法人季報、ソフトウェアを含む設備投資額、予想：前年比▲2.5%）

<海外>

○10:45 ◎ 2 月 Caixin 中国製造業購買担当者景気指数（PMI、予想：46.0）
○16:00 ◇ 2 月トルコ製造業 PMI
○17:30 ◇ 2 月スイス SVME 購買部協会景気指数（予想：48.0）
○17:50 ◎ 2 月仏製造業 PMI 改定値（予想：49.7）
○17:55 ◎ 2 月独製造業 PMI 改定値（予想：47.8）
○18:00 ◎ 2 月ユーロ圏製造業 PMI 改定値（予想：49.1）
○18:30 ◎ 2 月英製造業 PMI 改定値（予想：51.9）
○18:30 ◇ 1 月英消費者信用残高（予想：10 億ポンド）
○18:30 ◇ 1 月英マネーサプライ M4
○23:45 ◎ 2 月米製造業 PMI 改定値（予想：50.8）
○24:00 ☆ 2 月米 ISM 製造業景気指数（予想：50.5）
○24:00 ◇ 1 月米建設支出（予想：前月比 0.6%）
○3 日 03:00 ◎ 2 月ブラジル貿易収支
○英国と欧州連合（EU）の初交渉

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

28日 05:15 ペンス米副大統領
「最も正確な推計で一般市民への新型コロナウイルスの脅威は引き続き低い」
「全力で新型コロナウイルスと闘う用意」

28日 08:08 トランプ米大統領
「我々は新型肺炎に対して素晴らしい仕事をしている」
「習・中国国家主席とは定期的に連絡をとっている」
「中国での感染者数の増加は収まってきているようだ」
29日 06:48
「米金融当局がすぐにマーケットに関与することを期待」

28日 12:06 財務省幹部
「財務省・金融庁・日銀の3者会合の開催はまだ決めていない」
「今日の市場動向はノーコメント」

28日 14:54 カーニー・イングランド銀行(英中銀)総裁
「新型コロナウイルスの影響で、英国の経済成長率が下振れする可能性も」
「ブレグジットの経済的ダメージを予測するのはまだ早い」
「英経済はブレグジットによる再編を耐え抜くことができるだろう」

28日 15:52 ストルテンベルグ NATO 事務総長
「北大西洋条約機構(NATO)第4条に基づくトルコの要請により、シリアの状況に関して協議する」

28日 19:06 ワイトマン独連銀総裁
「緩和的政策が必要だが、ECBは緩やかな金融政策からの脱却を見失ってはならない」
「現在のインフレ目標は理解可能であり、将来を見据えて現実的」
「コロナウイルスの影響はまだ分からない」

28日 20:33 モンシャラン仏・欧州担当相
「英国はEU27加盟国の結束力を過小評価すべきではない」
「期限を短縮することは英国の選択で、EUの選択ではない」

28日 22:48 カプラン米ダラス連銀総裁
「市場の混乱巡るFOMCの行動についてコメントするのは早すぎる」

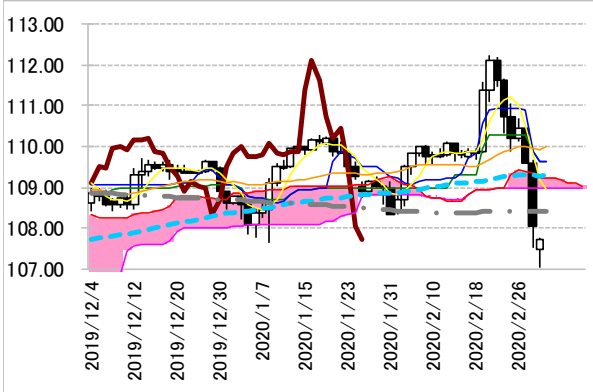
28日 23:12 ブラード米セントルイス連銀総裁
「現時点で追加利下げは基本シナリオではない」
「パンデミックになれば追加利下げの可能性」
「緊急のFOMC会合が適切だとは感じていない」

29日 01:09 世界保健機構(WHO)
「新型コロナウイルスの世界リスクを高いから非常に高いに引き上げ」

29日 04:33 パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長
「米経済のファンダメンタルズは引き続き強い」
「新型コロナウイルスを注視。経済を支援するために手段行使し適切に行動する」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

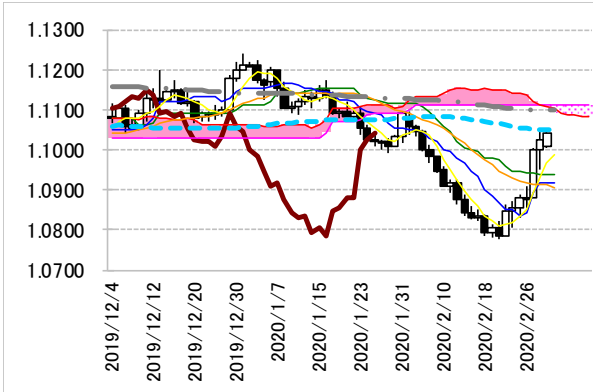


<ドル円=雲の下限を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線は同値、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。毛抜き天井（112.23円・112.19円）から陰線新安値5手で、転換線と基準線を下抜けており続落の可能性が示唆されている。

本日は、雲の下限を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 2	109.24(日足一目均衡表・雲の上限)
レジスタンス 1	108.97(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	108.05
サポート 1	106.48(2019/10/3 安値)
サポート 2	105.59(2019/8/27 安値)

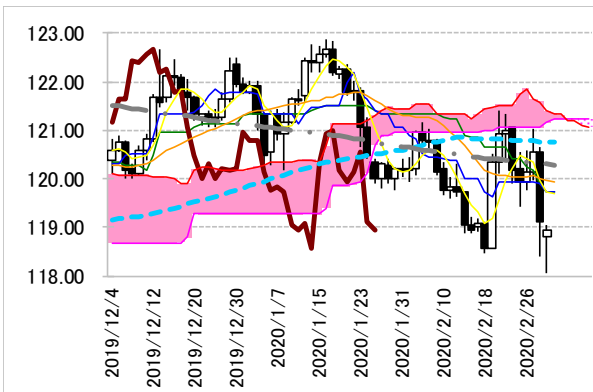


<ユーロドル=基準線を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の下で引けているものの、転換線を上回って引けていることで買いシグナルが優勢な展開。2017年4月の窓（1.0738ドル・1.0821ドル）を埋められず、陽線新高値5手で反発しており、続伸の可能性が示唆されている。

本日は、基準線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1108(日足一目均衡表・雲の下限)
前日終値	1.1026
サポート 1	1.0937(日足一目均衡表・基準線)

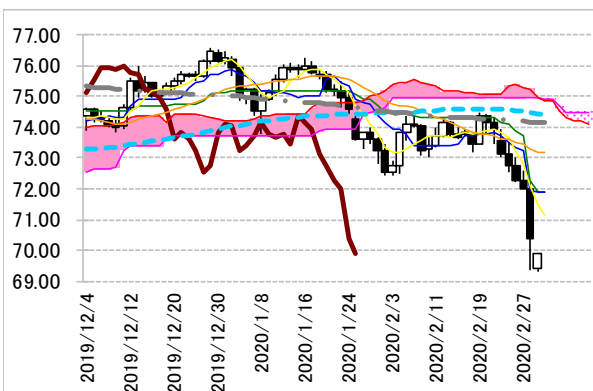


<ユーロ円=基準線・転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

大陰線引け。一目・転換線は一目・基準線と同値、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。基準線と転換線を下抜けていることで、続落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線=転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	119.74(日足一目均衡表・基準線=転換線)
前日終値	119.13
サポート 1	117.58(2019/10/10 安値)



<豪ドル円=基準線・転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線は同値、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることで、売りシグナルが優勢な展開となっている。7手連続陰線で下落しており、続落の可能性が示唆されている。

本日は、基準線=転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	71.90(日足一目均衡表・基準線=転換線)
前日終値	70.37
サポート 1	68.29(2019/12/27-2/3 下落幅のE計算値)

